

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 2・国立情報学研究所

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 研究の水準 分析項目 I 研究活動の状況</p> <p>【原文】 「観点1－2「共同利用・共同研究の実施状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。」</p> <p>【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい。</p> <p>【修正文案】 「観点1－2「共同利用・共同研究の実施状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。」</p> <p>【理由】 国立情報学研究所は、学術コミュニティ全体の研究・教育活動に不可欠な学術情報基盤の整備・発展を使命として掲げている。現況調査表「I 国立情報学研究所の研究目的と特徴」「2. 特徴」の(4)及び「想定する関係者とその期待」に記載の通り、共同利用では「国内の学術コミュニティ全体」に対する「国際的水準の学術情報基盤の提供」を想定し、情報学のみならず広く学術コミュニティ全体の研究・教育活動に不可欠な最先端の学術情報ネットワークや学術コンテンツ等の学術情報基盤を構築し大学等に提供することにより、学術全体の発展に資することを目指して事業を推進している。 学術情報ネットワーク (SINET) について</p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 現況調査表等を総合的に勘案し、「期待される水準にある」と判定した。</p>

は、加入機関数が平成 22 年度の 740 機関から平成 27 年度の 844 機関となったことにとどまらず、平成 27 年度に SINET5 へ移行を完了し、日本国内の全県を 100Gbps のネットワークで網羅した。これにより国際的研究ネットワークでの高水準な速度を確保し利用者の需要に対応するとともに、利用者が滞りの無い高速な通信で利用可能となっている。平成 27 年 3 月末時点で全国 800 以上の大学・研究機関等の約 200 万人以上が利用する情報通信ネットワークとなっているほか、Virtual Private Network サービスによりスーパーコンピュータ、大型実験施設を結んだ共同研究や、大学連携等にも使われている。

また、大学等のリポジトリ構築を支援するために平成23年度から開始した共用リポジトリサービス (JAIRO Cloud) については、平成27年度末月現在までの5年間で362機関がリポジトリ構築を実施しており、平成27年10月にリポジトリ構築数において日本が世界 1 位であることを支えている。

このように、共同利用においては国際的水準の成果にとどまらず世界最高水準の成果をも上げている。

以上の理由により、当該観点及び分析項目の判断は「期待される水準を上回る」が妥当であると考えため。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 2・国立情報学研究所

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 研究の水準 分析項目 II 研究成果の状況</p> <p>【原文】 〔判定〕 <u>期待される水準にある</u> 〔判断理由〕 「観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「<u>期待される水準にある</u>」と判断した。」</p> <p>【申立内容】 【修正文案】 の通り変更願いたい。</p> <p>【修正文案】 〔判定〕 <u>期待される水準を上回る</u> 〔判断理由〕 「観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「<u>期待される水準を上回る</u>」と判断した。」</p> <p>【理由】 国立情報学研究所は、現況調査表「I 国立情報学研究所の研究目的と特徴」「2. 特徴」の「想定する関係者とその期待」に記載の通り、研究については「情報学及び関連分野の研究者及び国内外の大学・研究機関等」に対する「我が国を代表する研究活動・成果や国際的連携活動」を想定している。 一方、現況分析結果の「判断理由」には、学術面、社会、経済、文化面ともに、数件の卓越した研究業績とともに、文部科学大臣表彰若手科学者賞や国際連合教育科学文化機関（UNESCO）Netexplo賞の受賞等の記載がなされており、提出した研究業績の判定結果について次のように記載されてい</p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 現況調査表等を総合的に勘案し、「期待される水準にある」と判定した。</p>

る。

国立情報学研究所の専任教員数は60名、提出された研究業績数は12件となっている。

学術面では、提出された研究業績10件(延べ20件)について判定した結果、「SS」は5割、「S」は5割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績3件(延べ6件)について判定した結果、「SS」は8割、「S」は2割となっている。

これらの成果は、情報学分野における学術研究機関として、国際的に見ても高いレベルにあり、研究所が関係者の期待として想定している「我が国を代表する研究成果」という水準を上回ると考えられるため、修正文案のように訂正いただきたい。